



MFJ 公認 準国際競技会

鈴鹿サンデーロードレース第1戦



MFJ/SMSC 2025 SUZUKA SUNDAY ROAD RACE - Round 1

■開催概要

- シリーズ名称: 2025鈴鹿サンデーロードレース第1戦
- 主催: ホンダモビリティランド株式会社 鈴鹿サーキット
- 会場: 鈴鹿サーキット フルコース (5.821km)
- 参加台数: 総参加台数/245台

CBR250R Dream Cup.....	30台
CBR250RR Dream Cup.....	26台
インターJP250.....	9台
ナショナルJP250.....	18台
インターJ-GP3.....	7台 (内、HRC NSF250R Challenge...2台)
ナショナルJ-GP3.....	11台 (内、HRC NSF250R Challenge...7台)
インターJSB1000.....	36台
ナショナルST600.....	35台
インターST1000.....	25台
インターST600.....	20台
ナショナルST1000.....	28台
- 開催日: 2025年4月19日(土)・20日(日)
- 天候/路面: (19日) 晴れ/ドライ、(20日) 晴れ/ドライ

★次回レース予定

- 開催日: 2025年6月7日(土)・8日(日) ■会場: 鈴鹿サーキット フルコース (5.821km)
- 開催クラス: インターJSB1000、インター/ナショナルST1000・J-GP3・ST600・JP250、CBR250R/CBR250RR Dream Cup



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。
https://www.suzukacircuit.jp/result_s/



★レース写真は、バトルファクトリー様のHPで
ご購入いただけます。
<http://www.battle.co.jp/>



鈴鹿サンデーロードレース開幕戦では鈴鹿8時間耐久ロードレース第46回大会への出場権をかけて行われる選抜レースの<トライアウト>が併催された

Series Sponsors





MFJ 公認 準国際競技会

鈴鹿サンデーロードレース第1戦



MFJ/SMSC 2025 SUZUKA SUNDAY ROAD RACE - Round 1

2025鈴鹿サンデーロードレースが開幕! 2日間に渡って熱く激しいバトルが展開された!!

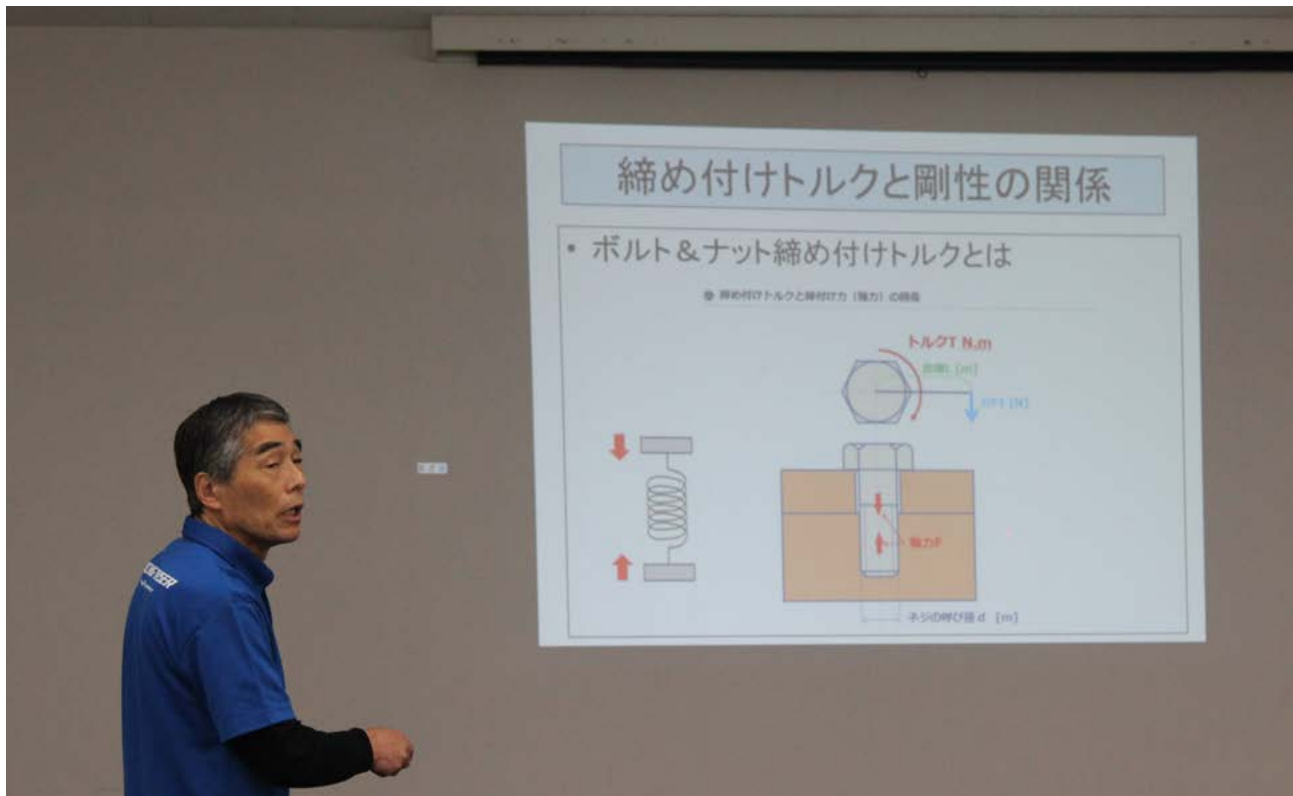
全日本ロードレース選手権へとつながる競技志向の強い2輪レースシリーズ、「鈴鹿サンデーロードレース」の2025年シーズンが4月19日(土)・20日(日)に行われた第1戦で開幕した。このシリーズはステップアップを目指すビギナーや若手ライダーと継続してレースを楽しむベテランらが集い、一緒になってしのぎを削ることで知られる。昨今はシーズンを通じて全レースがフルコースを舞台に開催されるようになったこともあり、さらに人気が上昇。今シーズンは今回の第1戦から11月の最終戦までの年間全4戦によってシリーズタイトルが争われる。

開幕戦となった今回は4月19日(土)に全カテゴリーの公式予選とCBR250R Dream CupおよびCBR250RR Dream Cupの決勝レース、翌20日(日)にその2カテゴリー以外の決勝レースが行われる2DAYS大会として開催された。また、「コカ・コーラ」鈴鹿8時間耐久ロードレース第46回大会への出場権をかけて行われる選抜レースの<トライアウト>が併催されたことでも注目を集めた。

この<トライアウト>は例年2回行われてきたが、今シーズンは今回の鈴鹿サンデーロードレース第1戦のみとされた。チャンスが少ないため、12チームが選出されるインターJSB1000には<トライアウト>チームが30チーム、3チームが選出されるインターST1000には同じく12チームが参戦。いつものレース以上の激しいバトルが展開された。

また、他カテゴリーのレースでもそこかしこで接戦が披露された。特にCBR250RR Dream Cupやインター/ナショナルJP250のレースではファイナルラップの最終コーナー立ち上がりまでひと時も目が離せない戦いが繰り広げられた。

次回鈴鹿サンデーロードレース第2戦は6月7日(土)・8日(日)に開催される。インターJSB1000およびインターST1000には鈴鹿8耐第46回大会のテストを兼ねたチームも多く参戦するはずだ。いつもとは違ったライダーも参戦するであろうこのレースが行われる第2戦にも是非ご注目いただきたい。



2回にわたって行われたライディング講習会。MFJテクニカルアドバイザーの小澤源男氏が質疑応答形式で参加者の質問に答えた

Series Sponsors



レースレポート(1)

MFJ/SMSC 2025 SUZUKA SUNDAY ROAD RACE - Round 1

■CBR250R Dream Cup

公式予選では中沢寿寛が唯一の2分43秒台となる2分43秒734をマーク。ポールポジションからスタートした中沢の横から2番グリッドスタートの入江高伸と3番グリッドスタートの堀絢仁が伸びていく。7番グリッドからスタートした秀崎隆がオープニングラップでトップに。しかし、真っ先にメインストレートに帰ってきたのは堀だった。2周目になるとその堀が2番手以降を引き離すことに成功。林規夫、中沢、秀崎ら6台が2番手グループを形成する。その中で中沢が公式予選で自身が記録したタイムより速い2分43秒579のファステストラップをマーク。堀はその間も後続を引き離し続ける。結局、2番手以降に5秒880のアドバンテージを築いた堀がトップチェッカーを受けた。それに秀崎、入江と続いた。



CBR250R Dream Cup表彰式(優勝:堀絢仁、2位:秀崎隆、3位:入江高伸)



Series Sponsors



レースレポート(2)

MFJ/SMSC 2025 SUZUKA SUNDAY ROAD RACE - Round 1

■CBR250RR Dream Cup

福田優弥と福井宏至が公式予選で2分35秒台をマーク。それに辻本範行が続く。決勝レースでは福田が良いクラッチミートを披露。それに福井、辻本と続くが、S字コーナーで福井が福田をパスしてトップに。4番グリッドスタートの大倉拓夢が福井を猛ブッシュ。福井と大倉がバトルを続ける間に福田と辻本がその2台に接近し、トップグループは4台のパックとなる。3周目のシケインで福田がトップに立つが、その直後の4周目1コーナーでは福井が福田をパスしてトップに返り咲く。福田が5周目の1コーナーで転倒。これにより、福井が頭ひとつ抜け出すことに成功するが、大倉と辻本が再び福井に接続する。その3台はバトルを続けたが、2台のスリップを使った大倉がトップチェッカーを受ける結果となった。



CBR250RR Dream Cup表彰式 (優勝:大倉拓夢、2位:福井宏至、3位:辻本範行)



Series Sponsors



レースレポート(3)

MFJ/SMSC 2025 SUZUKA SUNDAY ROAD RACE - Round 1

■インター／ナショナルJP250

鈴木未来翔が公式予選で唯一の2分29秒台となる2分29秒985をマーク。決勝レースではその鈴木(未)が良いクラッチミートを披露してホールショットを奪う。それに3番グリッドスタートの渡辺瑛貴、2番グリッドスタートの鈴木悠大のオーダーで続く。鈴木(悠)、渡辺、鈴木(未)の順にオープニングラップを帰ってくると、その3台がコーナーごとに順位を入れ替える激しいバトルを展開。そこに船田俊希、南博之を加えた5台がトップグループを形成する。そこから若干離れ、針尾大治郎と本間国光がテールtoノーズの状態に6番手の座を争う。鈴木(未)が7周目に2分29秒169をマーク。これは鈴木自身が予選で記録したベストタイムを上回る。自己ベストを更新し続けたその鈴木(未)が総合優勝を飾った。



インターJP250表彰式(優勝:渡辺瑛貴、2位:船田俊希、3位:鈴木悠大)



Series Sponsors



■インター／ナショナルJP250



ナショナルJP250表彰式 (優勝:鈴木未来翔, 2位:本間国光, 3位:南博之)



ナショナルJP250車両銘柄賞表彰式 (Honda賞:鈴木未来翔, ヤマハ賞:本間国光, カワサキ賞:神吉龍成, KTM賞:中尾正太)

Series Sponsors



レースレポート(4)

MFJ/SMSC 2025 SUZUKA SUNDAY ROAD RACE - Round 1

■インター／ナショナルJ-GP3・HRC NSF250R Challenge

公式予選で後続にコマ914のギャップを築く2分21秒778をマークし、ポールポジションを獲得した富樫虎太郎が良いクラッチミートを披露。それに2番グリッドスタートの戸高綸太郎が続き、富樫と戸高がオープニングラップから後続を引き離しにかかる。その2台に5番グリッドスタートの岩野偉大、4番グリッドスタートの長谷川蒼馬、3番グリッドスタートの中嶋昂士と続いてオープニングラップを終了。その後も後続とのギャップを広げ続けた富樫と戸高の後方では長谷川、中嶋、岩野ら6台が3番手グループを形成。7周目に富樫が戸高を若干引き離すことに成功するが、再びその2台が接近。結局、富樫がトップチェッカーを受け、ナショナルJ-GP3を制した。インターJ-GP3のウィナーは総合2位の戸高だった。



インターJ-GP3表彰式(優勝:戸高綸太郎、2位:中嶋昂士、3位:金子寛)



ナショナルJ-GP3表彰式(優勝:富樫虎太郎、2位:長谷川蒼馬、3位:山本瑠生哉)

Series Sponsors



レースレポート(5)

MFJ/SMSC 2025 SUZUKA SUNDAY ROAD RACE - Round 1

■インターJSB1000

公式予選では伊藤勇樹が数少ないアタックで2分10秒575というベストタイムをマーク。その伊藤がスタートで集団に飲み込まれる。ホールショットを奪ったのは3番グリッドスタートの和田留佳。それに2番グリッドスタートの中山耀介、7番グリッドスタートの彌榮郡と続く。2周目の1コーナーで伊藤が彌榮をパス。伊藤は中山にも接近し、和田、中山、伊藤の3台がテールtoノーズの状態トップ集団を形成する。そこから若干離れ、彌榮が4番手、長谷川修大が5番手を走る。3周目のシケインで中山が和田をパスしてトップに。4周目には伊藤が和田をパスすると、伊藤は中山の背後にも接近していく。5周目の130Rで伊藤がトップに。中山がファイナルラップの130Rで転倒。伊藤がポールtoウィンを飾った。



インターJSB1000表彰式(優勝:伊藤勇樹、2位:和田留佳、3位:彌榮郡)



Series Sponsors



レースレポート(6)

MFJ/SMSC 2025 SUZUKA SUNDAY ROAD RACE - Round 1

■ナショナルST600

公式予選では上位4名が2分18秒台をマーク。その中で2分18秒128のトップタイムを記録し、ポールポジションを獲得したターナー健人がホールショットをゲットするが、オープニングラップのデグナーカーブ2つ目で転倒したマシンがコース上に残ったことにより、赤旗が出される。リスタート後はターナーが再びホールショットをゲット。しかし、柏原信太郎、田中壮途、ターナーのオーダーでメインストレートに帰ってくる。柏原が一時的に頭心とつ抜け出しに掛かるが、その背後に田中とターナーが接近。3周目の1コーナー進入ではターナーがトップに立つ。ターナーは4周目にコースアウトしたが、すぐにコースに復帰。ファイナルラップまで続いたターナーと赤坂啓太とのバトルを制した田中の優勝が決まった。



ナショナルST600表彰式(優勝:田中壮途、2位:ターナー健人、3位:赤坂啓太)



Series Sponsors



レースレポート(7)

MFJ/SMSC 2025 SUZUKA SUNDAY ROAD RACE - Round 1

■インター-ST1000

亀井雄大が公式予選でコースレコードを更新する2分09秒348をマーク。その亀井と井手翔太の2台だけが2分09秒台を記録し、それに山中将基が続く。決勝レースでは亀井が良いクラッチミートを披露するが、オープニングラップを帰ってきたのは井手、亀井、4番グリッドスタートの吉廣光、山中のオーダー。2周目になると井手と亀井が3番手以降を引き離すことに成功する。井手はベストラップを更新しながら亀井にも若干のアドバンテージを築き、単独トップに。吉廣をパスした山中も単独3番手となる。レースが折り返しを迎える5周目になると亀井が再び井手の背後に接近。吉廣も山中の背後に迫る。井手と亀井は終盤に2分09秒台で周回し、バトルを展開したが、井手がトップチェッカーを受けることとなった。



インター-ST1000表彰式(優勝:井手翔太、2位:亀井雄大、3位:吉廣光)



Series Sponsors



レースレポート(8)

MFJ/SMSC 2025 SUZUKA SUNDAY ROAD RACE - Round 1

■インター-ST600

公式予選では伊達悠太がコースレコードを更新する2分11秒726のトップタイムをマーク。伊達の背後でタイムアタックを敢行した青田魁、さらに中島元気と続く。決勝レースでは伊達がホールショットをゲット。それに5番グリッドスタートの平城雄飛、中島と続く。オープニングラップのヘアピンで中島が平城をパス。伊達はオープニングラップ終了時点で中島以降に2秒020のアドバンテージを築くことに成功する。伊達は危なげない走りを披露しながら周回ごとに後続を引き離す。平城をパスした青田魁が中島の背後にも接近してこれをパス。青田、川本宜論、中島がテールtoノーズのバトルを展開する。その間も安定した走り続けた伊達が2番手以降に15秒537ものアドバンテージを築いてトップチェッカーを受けた。



インター-ST600表彰式(優勝:伊達悠太、2位:青田魁、3位:中島元気)



Series Sponsors



レースレポート(9)

MFJ/SMSC 2025 SUZUKA SUNDAY ROAD RACE - Round 1

■ナショナルST1000

公式予選では古田浩、杉本慎平、池田寛之、長笠原匡、塩野仁史の上位5台が2分20秒台をマーク。決勝レースではポールポジションからスタートした古田が良いクラッチミートを披露したが、3番グリッドスタートの池田がホールショットを奪う。池田はオープニングラップから早くも後続を引き離すことに成功。古田、竹中淳雄も次第に単独2番手、単独3番手に。その後方では片岡亮太、小森直樹、杉本慎平の3台が4番手グループを形成する。4周目になると古田が池田の背後に接近し、古田がトップに。3番手グループを抜け出した片岡も池田をパスする。片岡は古田をもパスしてトップに立ち、片岡、古田、池田が等間隔となったが、8周目の130Rで片岡が転倒。これによってトップに立った古田が優勝を決めた。



ナショナルST1000表彰式(優勝:古田浩、2位:池田寛之、3位:竹中淳雄)



Series Sponsors



**Voice
of
Pick up
Riders**
-SUNDAY EDITION-

この日、キラリと光った
ライダーに問一答

CBR250RR Dream Cupで優勝した

大倉 拓夢 選手

(YTR+J.COMPE+BetonTech/Honda CBR250RR)



Q.公式予選では福田優弥選手と福井宏至選手の2名が2分35秒台、辻本範行選手に続く予選4番手でした。

A. 単独でのアタックが得意じゃないので、同じチームの福井選手に引っ張ってもらい、タイムを出す作戦でした。しかし、シフトの調子が良くなく、ピットに入る必要が出てきてしまったので一旦ピットに入った後、単独でアタックしました。本当はもっと上に行きたかった。フロントローに並びたかったです。

Q.決勝レースではファイナルラップのシケインで一気にトップに立ちましたね。

A. 福井選手に先に行かれてしまうとまずいと思っていたので、できるだけ遅れを取らないようについていきました。ファイナルラップまで食らいついていればチャンスがあるかもしれないと考えていたのですが、ファイナルラップの西ストレートで運良く福井選手と辻本選手のスリップを使うことができ、一気に前に出ることができ、しかも少し離すこともできました。開幕戦で勝てたというのはシーズンに希望を持てる材料です。

Q.昨シーズン、このカテゴリーでチャンピオン福井選手続くランキング2位でした。

A. 福井選手はこのカテゴリーで強く、2年連続チャンピオンです。今回、その福井選手に勝つことができたので、このまま第2戦以降も福井選手より上でチェッカーを受けたいです。そうすればチャンピオンも見えてくると思います。

Series Sponsors